

# 麦の生育と管理

平成31年4月号

宇佐市農政課

大分県北部振興局集落営農・水田第一班

## 麦の赤かび病防除の徹底を!!

### ◎11月からの天候と今後の予報

#### ○これまでの生育状況

- ・播種以降、全般に高温で推移したことから生育が早く旺盛となっています。

#### ○これからの天候

- ・気象庁によると4月の気温は平年と比べ高く推移するとの予報です。麦の生育がより早く進む可能性があります。
- ・降水量は、平年並または多くなり、平年に比べ晴れの日が少なくなる予報です。
- ・赤かび病・網斑病が発生しやすい条件となるため、適期を逃さないように防除の徹底に努めましょう。(発生確認後では間に合いません!)

### ◎赤かび病防除の徹底!

- ・赤かび病は、人体に有毒なかび毒を発生させるため、赤かび病に感染した粒が混入すると規格外になります。
- ・赤かび病は出穂期から乳熟期に多雨・曇天で、高温(20~27℃)の場合に多発します。
- ・出穂後10~20日間に赤かび病に感染すると、登熟不良を引き起こし、感染した粒は肥大できずに千粒重が小さくなるため、減収につながります。

#### ○赤かび病の防除法

- ・赤かび病は2回防除が基本です。
- ・収量確保のために、開花最盛期とその7~10日後の2回防除を徹底しましょう。
- ・1回目と2回目の薬剤を変えると、さらに防除効果が高まります。

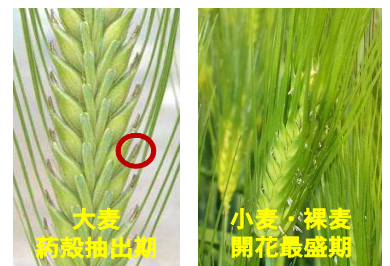


赤かび防除薬剤

麦種		薬剤名	使用時期	使用回数
小麦	1回目	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内
	2回目	トップジンM ゾル水和剤	収穫14日前まで	3回以内 出穂期以降は2回以内
裸麦 二条大麦	1回目	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内
	2回目	トップジンM水和剤	収穫30日前まで	3回以内 出穂期以降は1回以内
トップジンMゾル		収穫14日前まで		

1回目防除は赤かび病と網斑病の同時防除を狙いましょう。

#### 防除適期



大麦：出穂12~14日後  
小麦：出穂7~10日後  
裸麦：出穂5~7日後  
+  
7~10日後に2回目散布

裏面へ

## ◎雑草対策

雑草が繁茂すると収量や品質の低下を招きます。特に例年発生が多くみられる圃場ではこまめに発生状況を見ながら確認し、適期に防除を行いましょう。

生育期除草剤の一例

薬剤名	使用時期	対象雑草	使用量 (10aあたり)	回数	希釈水量 (10aあたり)
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで (但し、ヤエムグラ4節期まで)	一年生雑草 (休科を除く)	100～200ml	2回以内	70～100L
バサグラン液剤 (※小麦のみ)	収穫45日前まで (但し、雑草の3～6葉期 ヤエムグラ6節期まで)			1回	

※ラベル等をよく読んで使用してください

※大裸麦では使用時期が収穫90日前までなので、バサグラン液剤は3月以降の使用が出来ません。

## ◎ミナミノカオリは実肥でタンパク質含有量13%の確保を！

ミナミノカオリは確実に実肥を散布しましょう。葉面散布では赤かび病防除と同時に行えますので、必ず2回散布しましょう。

実肥の施肥量と時期

施肥方法	窒素成分量	施肥量(10a当たり)	回数	施肥時期
硫安・ 尿素散布	6 kg/10a	硫安 30kg または尿素 13kg	1回	出穂後0～10日
葉面散布	5.5 kg/10a	尿素6 kgを水100Lに 溶かす	2回	赤かび病防除と混用し 同時散布

## ◎カラスノエンドウ等の種子混入防止

- ・カラスノエンドウ等の種子混入は、産地全体の評価の低下につながります。
- ・カラスノエンドウ等が圃場に残った場合には、必ず抜き取り除草を行いましょう。
- ・産地全体の評価を守るために、雑草の種子混入を完全に防ぎましょう。

